

心臓血管外科

2021 年度

心臓血管外科の紹介

心臓血管外科の紹介 50 年以上の歴史ある当科ですが、新生児から 80 歳を越える高齢者の多岐に渡るいろいろな心臓血管手術を行っていることが当科の特徴で、大学病院以外の市中病院では数少ない施設の一つです。心臓血管外科専門医認定修練施設で年間 750 例近くの心臓血管手術(うち心臓 大血管手術 500 例)を行っています。広島県内では一番多く、中四国地方では 3 番目の手術数と思われます。先天性心疾患、後天性心疾患、血管疾患の領域ごとの症例数や治療内容の詳細についてはホームページ内の診療科の紹介を参照していただきたいと思えます。

先天性心臓手術においては、新生児・乳児期早期の手術症例のみならず、成人期に到達された患者さんに対する再手術症例が増加してきています。成長して体格が変わること、経過観察期間が長期にわたることから、先天性心疾患症例においては成人期の再手術はあるていど避けられないことであり、近年重要な課題となっています。

後天性心臓手術では弁形成術、複合手術を積極的に行っており、2015 年 12 月より経カテーテル的大動脈弁置換術(TAVI)も開始し、2020 年には累計 300 例を越え、今後も増加が予想されます。昨年より右小開胸胸腔鏡補助下の僧帽弁形成術(MICS-MVP)を本格的に導入しました。大動脈弁位におきましては、Sutureless aortic valve(大動脈弁置換術で使用するための縫着の必要がない人工弁)も導入しました。虚血性心疾患においては、オフポンプ CABG(人工心肺を使用せず、心拍動下に行う冠動脈バイパス術)を第一選択としております。

血管外科の大きな特徴は、他施設にてあまり好まれないような難易度の高い再手術・胸腔内広範囲置換術・胸腹部大動脈瘤手術を相変わらず積極的に行っていることです。これも 1978 年より胸部大動脈瘤手術が開始され 2200 人以上の手術症例を積み重ねてきた医局の結果・成績によるものと考えます。また、腹部および胸部大動脈疾患に対する低侵襲治療として、ステントグラフト治療(TEVAR&EVAR)を導入して 14 年が経過しました。現在までの累計は胸部・腹部併せて 1400 例近くまでなっておりステントグラフトのハイボリュームセンターといえます。さらにハイブリッド手術室の運用に伴い、複雑な手技を要するステントグラフト治療をより安全に行える体制が整っています。結果、開胸・開腹手術は非常に困難である症例へのハイブリッド治療を行うことができます。

各領域においてステントグラフト、ハイブリッド治療、TAVI、MICS などさまざまな手技があるわけですが、当院において施行可能である治療手技が増えることは、個々の症例に対してより適切な治療方法が選択可能になることにつながると考えています。

学会活動も積極的に行っており、研修医の先生にも全国学会、地方会、研究会での発表の機会を与えています。当科の研修体制専門性の高い科のため初期研修時に研修される先生は少ないですが、心臓血管外科を志望する先生に

指導医から一言

久持 邦和

心臓血管外科 主任部長

初期研修中で進路を決めかねている先生へ
長時間手術が多く、拘束時間が長いなど敬遠されがちな診療科ですが、手術がうまくいった時の達成感は格別です。また手術の善し悪しが手術直後より術後経過に影響するものが心臓血管手術の特徴です。そのクリアカットな診療を体験してみませんか。

心臓血管外科を志望されている先生へ
新生児から 90 歳近くの高齢者のいろいろな心臓血管手術を行っています。多くの症例、手術を経験でき、専門医修得にも有利だと思います。一緒に頑張りましょう。

限らず循環器内科、外科、麻酔科を志望する先生方にも研修してもらいたいと思います。研修中はできるだけ多くの症例で手術に参加し、多くの心臓血管手術を体験してもらいます。後期研修では外科専門医修得のための手術経験とともに、心臓血管外科志望の先生には疾患・手術手技の理解を深めてもらい、執刀機会を与えています。

日常診療は 7:30 の ICU 回診から毎日の診療が始まります。水・金曜日は 8:00～に術前・検査後カンファレンスを行い、循環器内科との合同カンファレンスは月曜日 17:00～に TAVI・血管疾患カンファレンスと火曜日 17:00～にエコーカンファレンス、木曜日 8:00～に心疾患・バルブカンファレンスを行っており、循環器小児科との合同カンファレンスは火曜日 18:00～に行っています。9:00 から病棟回診あるいは手術となります。火曜日 8:00 から勉強会を開いています。

